

今月の八木健 川柳は「非常識」がいい

疑問をそのまま書く。これが川柳の方法。川柳は疑問をそのまま書いてよらしい。その場合、答えまで書く必要はない。作者が抱いた疑問に読者が共感し、一緒に考えてくれるからだ。そしてなにより最大関心事が何なのか。当事者につきつける必要がある。不可解だ口啼疫の拡大は

今月の八木健



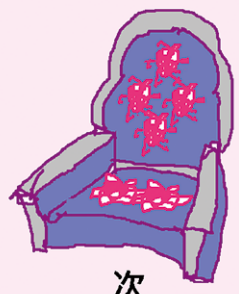
不可解だ口啼疫の拡大は

やぎけん

特選

選者・川柳アート 八木健

(月刊川柳総合誌「川柳マガジン」元選者)



重い椅子 次々軽い 人座る

金子 亶

金子 亶 (東温市)

重い椅子次々軽い人座る
総理大臣が短期間に変わる。当初は期待させるが、ほどなく買いかぶりだったことが判明する。椅子の重みが分からないから、すぐに放り出す。人間が軽いから、椅子が傷まらいらしいね。

佳作



嗚呼うわさバトンタッチでリレーする

大西知子

大西 知子 (松山市)

嗚呼うわさバトンタッチでリレーする
「人の口には戸をたてられぬ」とは良く言ったもの。「絶対誰にも言わないで」が、うわさを広めるキーワード。しいには尾ひれが付いて発信人に戻るから可笑しい。



横向きで写してくれと今も言う

松友順三

松友 順三 (松山市)

横向きで写してくれと今も言う
横顔美人なんだろう。あるいは左右の一方だけが美人ということ。「どちらでもいい」なんてえのは不美人だ。「今も言う」……、八十歳になっても美しく写されたい。



財布の穴繕いながら路地に棲む

藤原白男

藤原 白男 (今治市)

財布の穴繕いながら路地に棲む
川柳人は金持ちであつてはならない。批判精神が衰弱してしまうからだ。この句の作者は貧乏が好きで、裏長屋に住んで財布の穴を繕うのが好き。もちろん、中身はほとんど無い財布である。



百均でときどきゴミも買ってくる

大政 利雄 (松前町)

百均でときどきゴミも買ってくる
百円均一だから、額を気にせずに買える。品質を問わなければ、一応満足できるがすぐ捨てられる。ゴミ袋も買う。その袋に入れて持ち帰れば、そのまま捨てることができる。



石原 康正

石原 康正 (松山市)

ダルマ落としか日本の総理大臣は
国会議事堂では昔ながらのお遊戯をしている。総理大臣のダルマ落としてある。歴代の総理の顔を描いたダルマ落としては売れるかもしれぬ。腹が立ってば思いっきり叩ける。

古今の名句



美しい男勝りで遠い縁

北羊

北 羊

美しい男勝りで遠い縁
美しいのに未婚のままにいる人は、気分「男」が混じっていることが多い。「男は度胸、女は愛嬌」とはよく言ったものである。「プスは三日で馴れる、美人は三日で飽きる」と言うが、心理の真理だろうね。
(北原晴夫編「川柳博物館」より)

本コーナーが
待望の単行本化
好評発売中!!



「八木健の川柳アート」では、川柳を募集しています。テーマは自由。未発表のオリジナル作品に限ります。採用された作品には八木さんが「川柳アート」を作り、本誌に掲載の上、採用者にプレゼントいたします。応募方法は36ページをご覧ください。